

21J-pm05

薬剤管理指導業務充実へ向けての取り組み

○城野 修男¹, 松浪 有香¹, 谷口 嘉宏¹, 松岡 智美¹, 上鶴 理佐¹, 中村 文美¹,
金子 昌平¹, 山内 一史¹, 坂上 麻菜美¹, 中谷 健一¹, 谷垣 求¹, 村上 雅代¹,
伊藤 優子¹ (市立貝塚病院薬剤部)

【目的】薬剤管理指導業務の目的は、服薬コンプライアンスを高める、副作用発現の早期発見に務める、薬に対する患者の不安を解消する、医師・看護師が必要とする医薬品情報を提供する等でありこの業務を充実させることは非常に重要である。今回実施率、算定件数の増加に取り組んだので報告する。【方法】当院は6病棟249床(緩和ケア病棟1棟19床含む)、薬剤師数は常勤換算17名、補助業務2名の外部委託が常駐。入院処方せん68枚/日、院外処方せん発行率96.3%、入院注射払い出し(定期・至急)300件/日、抗がん剤調製件数590件/月。電子カルテ導入を機に持参薬報告を電子カルテ入力に変更した。医師は持参薬報告から継続する薬品を持参薬処方オーダーする。持参薬処方により入院後の処方・注射薬との相互作用のチェックが自動的に行われる。また持参薬処方は経過表、インチャージシートへ反映し持参薬の残日数も一目で分かる等の理由で薬剤師が入院初日に薬剤管理指導及び持参薬報告を行うことにした。薬剤管理指導システムにはイベント情報が配信され退院予定決定後には他院までの日数が表示され計画的に退院時薬剤情報管理指導料を行うことが可能である。業務配置は調剤室3.5名、治験・DI・薬品管理2.5名、入退院支援センター1名、化学療法室2.5名、薬剤管理指導・病棟薬剤業務に5名配置し、薬剤管理指導業務充実目的で2.5名の病棟応援体制とした。【結果】平成29年度薬剤管理指導業務実施率は98.9%。週末入院の転院等を除けば実質100%である。診療報酬改定で「間隔は6日以上」の事項が削除され、週明け体制強化目的の2.5名の応援体制がさらに算定件数の上昇に繋がった。病床稼働率が73.2%と低い中、薬剤管理指導算定件数は1043件/月(4.5件/床/月)、また指導回数は1500回/月と処方変更にも可能な限り対応している。